

1 自己評価及び外部評価結果

作成日： 平成23年3月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073300313		
法人名	株式会社 太平洋		
事業所名	グループホーム ファミリー		
所在地	福岡県宗像市平井1丁目19-1		
自己評価作成日	平成23年2月8日	評価結果市町村受理日	平成23年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成23年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新体制になり1年が経過しました。職員の意見・アイデア等で業務改善を実施した入浴の少人数化、日程変更夜勤・日勤業務の変更マニュアル化等で効率改善された時間を毎日の朝リハビリ体操、昼レクなどご利用者様の個別支援にシフト変更してきました。その結果大きな事故もなく過ぎてくれました。ご入居者様からは「体操はまだなの?」「今日は何を作るの?」など声が聞かれるようになりました。ホールは飾りつけ担当職員が毎月アイデアを出し四季折々の飾りつけでご入居者様はもとよりご家族、来訪者の方々にも感動と喜びを与えられ「来るたびに綺麗に飾って楽しいです」・この声に職員一同尚一層高いレベルを目指し日々奮闘いたしています。年間通じての施設行事はすべてクリア出来、地域の行事にもほぼ全行事参加させていただきました。今年度は更なるステップアップと「継続は力なり」で入居者様、ご家族様に喜ばれる施設になるよう努力いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

23年春、5本の桜の木が植えられている地元の公民館を利用したお花見が予定されている。なるべく、地元のお店や公民館を利用し、地域の方との交流を大切にされたきたが、地区新役員の方で健康福祉委員ができ、地域の行事や介護状況を伺えるようになり、お互いにアドバイスができる環境にもなった。10区の組長の方からも地域情報を頂けるようになり、グループホームファミリーも、着実に“地域の一員”としての活動ができるようになってきた。22年にスタートした新体制の中、新しい管理者と介護支援専門員は、全職員と共に“ファミリー”の理念を共有し、実践するための検討を続けてこられた。ご利用者を思う職員の気持ちは同じで、毎月「おしゃれ」の日と題してマニキュアをする日を作ったり、8月の夏祭りには、カレー素麺やたこ焼きなどの屋台フードをバイキング形式で準備、クリスマス会にはスイーツバイキング・と、様々なアイデアが実践されてきた。音楽療法の目的で行われる管理者のギターの弾き語りも好評で、ご利用者の笑顔を引き出す取り組みが続けられている。医療知識のアップにも力を注ぎ、看護師からの個別指導も続けられた。“安全”を考慮しながらも、心のふれあいを大切にする“家族”を目指したケアに取り組まれているホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関ホールとリビングに理念を掲示して職員がいつでも見ることができる様にしている。月1回のミーティングの時には、理念にまつわる支援の確認と業務改善。又日々の仕事を通じて常に「入居者の為に」の意見交換しながら実践している。	『「ファミリー」は、ご入居者・ご家族の皆様と私達スタッフが心のふれ愛を大切にする‘家族’でありたい』という理念を目指し、職員の意見やアイデアは着実に増え、積極的に行事企画を考えられている。ご家族と終末期について話し合った時にも、ご家族の気持ちを考え、お互いに納得できる結果を得ることができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平井区に加入して2年目となり、地域行事については、今期も同様に参加する計画となっています。又、ご近所で家庭介護をされていた福祉用具、備品等も譲りうけるなどの付き合いができてきました。	地域の夏祭りや花見に行った時に子ども達と出会う事があり、ご利用者はとても喜ばれている。地区新役員の方で健康福祉委員ができて、地域の行事や介護状況を伺えるようになり、お互いにアドバイスができる環境となった。10区の組長の方からも地域情報を頂けるようになり、差し入れも頂けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常のリハビリやレクリエーションを兼ねて平井区内の散歩をしています。ご近所の方々と挨拶を交わすことで閉塞感をなくし、入居者の理解に繋がり、地区行事には必ず参加し地区の子ども会等とコミュニケーションを取っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域住民代表として平井区民生委員、新たな健康福祉委員、市職員の参加で2ヶ月に1度実施している。事業所の運営状況や入居者の様子を伝え地域行事の参加や家庭介護の状況、行政から他事業所の情報などの意見をサービスの向上に活かしている	会議では、ご利用者の状況報告と合わせて、行事報告、防災報告等も行っており、それぞれのお立場からの貴重な意見を頂けている。健康福祉委員が新設され、地域とホームの情報が一部共有され、家庭介護の備品等の余りを頂く事もできた。民生委員から近くの喫茶店を教えてください、食事に行く事もできた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サブマネジャーは市の担当者に運営推進会議のあり方を相談している。認知症ケアのことについてアドバイスを頂いたり、ホームの現状を報告するなど、日頃から市の窓口を訪れたり、運営推進会議を通じて密に連絡をとりあっている。	21年、宗像市役所介護保険課主導の地域密着型事業別連絡会「地域密着ネットむなかた」が発足し、2ヶ月に1回、事業所間の交流が行われている。介護保険課担当者との関係も良好であり、随時、連絡、相談等が続けてきている。地域包括の方とも情報交換が続けており、ご利用者の紹介等も頂けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者が認知症実践研修にて身体拘束の研修を受けてミーティングを通じ教育、報告にて周知徹底しています。玄関の施錠につきましても、毎朝30分の入居者様と清掃の時間に開放し、短時間でも開放的な暮らしを味わっていただいています。	法人、ホーム共に共通の“身体拘束ゼロ方針”に基づき、内部研修が行われている。日々の業務の中では、業務優先のケアを行っていないか等の話し合いが行われている。身体拘束をしない取り組みとして、ベッドからの転倒骨折リスクを回避するため、ご家族にも相談しながら、畳上に布団を敷く等の対応も行われている。	職員は、開放感溢れる暮らしの大切さを理解し、毎朝30分はご利用者と一緒に清掃をする目的で、玄関の開錠をすることができた。交通量の多さもあることから、今後も引き続き安全面も考慮しつつ、開放感溢れる暮らしのあり方を検討していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止研修にてうけた内容を全員ミーティングにて周知徹底教育を実施、常に回覧出来る場所に資料を置き対応している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者1名が成年後見人制度を活用されており、管理者が研修に参加して勉強しておりホーム内にも資料を常設していつでも閲覧出来る様になっている。勉強会を通じて理解を深める取り組みもおこなっており、後見人の面会時や担当者会議等にて情報交換を実施している。	サブマネジャーを中心に、それぞれのご利用者の家族状況等にも考慮しながら、制度の利用の必要性を個別に検討している。管理者も含めて、後見人の方や市役所の保護課の方との話し合いを密に続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に締結、解約又は改定等は説明を行いご家族の不安、疑問点などは契約時点でお答え対応している、その後については電話にて解決回答できるように取り組んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は日勤中心の勤務となり面会時にはご意見、ご要望を受けサブマネジャーへの相談のうえ支援に反映させると共に意見、苦情等は運営推進会議での議題として取り上げ助言を頂き改善できる仕組み作りあげている。	ご家族からも運営に関する要望を伺うように努めてきた。施設内行事に参加されたご家族から、「スケジュールが合えば外出行事に参加したい」という要望も頂き、11月の宗像大社の菊花展等にご家族が参加して下さい。21年、「ご家族自らが発足する家族会」も立ち上がり、行事の時に一緒に協力して下さい。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の仕事の中で職員の意見、提案を聞きミーティング等を通じ議題としてあげ合議制にて改善できる仕組みを作り上げている。	管理者、看護師、職員は、22年から新たなチームを作ってきた。様々な経験や思考を持つ職員との意見交換を活発に続けてきたが、行事の企画も自主的に考えてくれるようになった。職員同士のチームワークを支える存在でもある統括やサブマネジャー等は、職員の相談にも乗り、個別面接も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等により給与水準の見直しや正職員への登用等を行っている。又資格取得については受験対策や資格取得に向けた勧奨を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象からはずすことはしていない。個人の能力を見極め仕事量の配慮をしているパソコンが得意な方にはファミリー通信を作っていたり、裁縫が得意な方、ダンボールを使って小物を作るのが得意な方、ギターによるコンサートをするなど、得意分野を把握し、力を発揮して頂いている。資格取得の資料等も準備し指導する等職員のキャリアアップにも支援を行っている。	職員の離職はほとんどなく、馴染みの職員でケアが行われている。勤務年数が長くなる中で、職員個々の能力や特技を把握しており、料理や飾り付け等の力を発揮して頂いている。統括、サブマネジャーとも連携しながら、管理者中心に全職員で力を合わせ、更なるチームワークを作っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サブマネジャー、管理者が人権尊重の大切さを職員に伝えている。内部研修への参加も検討しておりミーティングの時間に個別の具体例を挙げて、人権を尊重することを職員全員で話し合っている。倫理についての研修も行った。	年2回行われている人権に関する外部研修に、職員を交代で参加させており、伝達研修も行われている。職員は、ご利用者との日々の“心のふれ愛”を大切にしながら、ご利用者の意見を尊重し、ご利用者主体のケアを心がけている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	テーマに合わせて本人の希望や能力を勘案した研修会の案内を行っている、参加希望者には研修日程に合わせた勤務形態をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は21年度より「地域密着ネットむなかた」の行政主導のプロジェクトチームに参加して勉強会、相互訪問、情報交換会、研究発表など活動をして来ました。今年度も引き続き活動しサービスの向上に取り組んでいます。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面接の中で本人・家族の意向を聞き取り、センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の思いや不安・要望等の把握に努めている。意思疎通の困難な方の思いが難しく、日々関わることで信頼関係を築き、安心して生活できる支援内容を職員全員が共有するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に担当者会議をサブマネジャー、ケアマネジャー、管理者、看護師とご家族で開催している その中でご家族の要望、不安を確認して今後のケアプランに活かし職員全員の共有のなかで支援できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時担当者会議時に本人とご家族のご要望で「美容室でカット髪染めをしたい」との事で月1回職員が馴染みの美容室への送迎支援している。 恒例外出の1つとして位置付けご本人も楽しみに待たれている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時に担当者会議をサブマネジャー、ケアマネジャー、管理者、看護師とご家族で開催している その中でご家族の要望、不安を確認して今後のケアプランに活かし職員全員の共有のなかで支援できるようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の要望に出来る限り答えられる様に、外出行事や施設内行事に家族会を通じて参加を以てして共に楽しめる環境をつくり、本人と家族と職員の絆が深まるように努力している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者のお1人に以前より美容室にて髪染めをされている方がおられ現在も月1回利用され今後も継続して支援していきたいと考えています。	日々、ご利用者との会話の中で、外出希望や願いを把握するように心がけている。ご家族にも、馴染みの場所の確認をしており、ご家族も一緒に同行頂く事もある。馴染みの美容院、お墓参り、自宅、馴染みの店、法事など、ご家族との協力も含めて努めている。なるべく、1人ひとりの意向に沿った支援ができるように努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	10時からの朝リハビリ体操は全員がリビングにて参加され全員が顔を見渡せる環境で実施されています。午後のレクについては2階ユニットの方のみ参加に対し火・木・土は全員参加のグループワークに変更し利用者同士の関わる時間を増やしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	22年10月で長期入院のため契約満了したご利用者様のご家族へ今後の進路についてのご相談やアドバイスをしました。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式に基づくアセスメント用紙を活用しご本人の思いや意向の把握に努めている。特に意思疎通の困難な方たちの思いの把握が難しく、職員同士で把握できている 内容や量にも差があるため、ミーティングの場を活用し、職員全員で共有できるようにしている。	生活歴含めて、ご利用者、ご家族からの意向を伺うことに努めており、趣味や好きなこと等も把握しており、職員間で話し合いをしている。言葉数が少ない方には、入浴時にゆっくり語る時間を作り、思いを語って頂けるように努めたり、レクタイムなど、ご利用者に喜んで頂ける場を作り、表情等の把握もしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク時のカンファレンスで生活歴、馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等は記録されているので全職員は把握は出来ているが、その後の面会時にもれていた内容の確認をしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し24時間時間帯サマリーで過ごし方を把握している。心身状態について異常時は記録することになっている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用して計画作成担当者が中心となりご本人・ご家族の意向を確認しケアマネジャーがプランの原案を作成している。なるべく本人が出来ることを主体にするように努めている。なるべく本人が出来ることを主体にするように努めている。一部課題・目標がスタッフの視点で作成されているものもある。ようやく人員も安定期に入り、アセスメントを強化してご本人様本位のプラン作成していきたいと考えている。	ご利用者、ご家族等の意見を基に、ご利用者の力が発揮できる目標が作られている。“図書館の利用”“町内行事への参加”“散歩”等も計画に盛り込まれ、リハビリの視点と共に、“地域で暮らす”視点も大切にされている。入浴等の手順書も作成され、個別記録は計画に沿って行われている。現状に即した見直しも行われている。	介護計画2表に入りきれないケア内容などは、3表に明記され説明もされている。サービス内容も具体的に書かれているため、今後は、自立支援の視点も更に意識しながら、ご本人やご家族、主治医の役割も計画に盛り込まれていく予定にしている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今までご利用者様と接する時間がすこし不足していた事から気づきの記録がやや少ないと思います。作業改善により午後の時間より毎日レクリエーションを実施するようになりました。関わりを多くもてた事で日々の記録だけでなく、別冊子にレク内容、気づき、結果等も記録が出来、介護計画の見直しに活かせると考えています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と話が出来る状況が増えたため、意向や要望を出来る限りサービスに反映できる努力は行っている。例えば、馴染みの美容室への送迎や、買い物同行で好きな食べ物を買って頂く等全体としては少ないが、今後取り組み強化したい		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の公園での花見、敬老会では公民館にて踊りなどに参加させて頂きました。今後は本人に合った地域資源の把握に努め、豊かな暮らしを楽しめる支援をプランに入れ目標としていきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・家族の意向を伺い、協力医療機関以外でもかかりつけ医を希望される場合、受療していただいております。現在、透析治療を2名の入居者様が受けており、担当医ではないが、信頼関係の中往診時にはアドバイスを頂いている。	受診は看護師や職員が行っている。ご家族には電話で受診報告し、後日面会時にも詳細に報告している。定期的な往診もあり、必要に応じて専門医への紹介も頂いている。カンファレンスなどに、看護師の指導で医療面の勉強を続けており、体調変化の観察も深まり、昼間の間に、早期発見、早期治療が行えている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は身体的及び精神的な気づきを看護申し送りノートへ記録として残し、看護師勤務時に相談往診、受診を適切に受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会の頻度を上げて病院関係者との情報交換は常に実行している。また往診時には経過報告を確認し出来る限り、早期退院ができるように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や状態が変わった場合、重度化したときにどう対応するか、管理者、看護師がご利用者、ご家族と話し合い、状況に応じては医師への相談もおこなっている。入居時ホームで終末期を迎えたいと希望されていてもその後状況が悪化した場合入院を希望される家族もおられ、繰り返し話し合いをし意思の確認をおこなっている。	“利用者が尊厳を持つ一人の人間として安らかな死がむかえられるように、ご利用者またはご家族の支えともなりえる身体的、精神的支援に努める”という指針に基づき、サマネジャーが契約時に説明している。医師の個人携帯を伺っており、夜間駆けつけて頂ける体制も整えている。ご家族の意思は揺らぐものであり、より一層の意思確認や不安を和らげて頂ける環境作りにも努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルに基づき全職員の教育を実施しました。又応急手当について看護師より初期対応及び発生時にOJTとして訓練を行っているが定期的には実践されておらず今後の課題としていきたい。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災マニュアルがあり防火管理者を中心に避難訓練を実施している。新たにスプリンクラー、通報装置の教育も実施、日頃から火災地震等については職員間でも意識した会話をしている。協力体制は民生委員を經由して体制を築いている	職員、ご利用者と一緒に、避難訓練を実施しており、次年度には、地域の消防団の方々と一緒に避難訓練を実施する予定となっている。食事がクックチルトのため、常に1週間分の食料が確保されており、数日分の飲料水も確保されている。水害に備えて、坂の上の公民館を避難場所に変更された。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理規定に基づき研修をおこなっており、「こころの抑制」をしないようにミーティングを通話し合いをおこなっている。ご利用者のプライバシーを損ねるような声かけにも注意し、羞恥心にも配慮した対応をおこなうように心がけている。	居室は、ご利用者のプライベート空間と意識し、入室時はノックすると共に、換気のために窓を開ける場合も、外から見えないようにレースのカーテンを閉める等の配慮を行っている。ポータブルトイレには花柄のカバーを掛けたり、車椅子の後ろのポケットにパッドを入れる場合には、ホシットに入れて見えないようにする等、羞恥心への配慮も行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に対してコミュニケーションを通じて本人に聞き出し、本人のやりたいことを支援できるように努めている。例えば「買い物」「理髪」「ドライブ」、食事準備など。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過したいか、ご本人のペース・暮らしぶりを把握して、入浴拒否等ときは本人の気持ちを確認し、無理強いせず希望にそって自由に横になっていただいたり、TVを見たり、それぞれ自由に過していただいている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後に爪きりと髭剃りの施行を週2回のペースで実施、散髪については2ヶ月に1度福祉利美容サービスから出張にて実施している、1ヶ月に1回「おしゃれ」の日と題して手浴をしてマニキュアをするなどの喜んでいただいています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様によっては盛り付け、配膳等を職員と一緒に楽しくしていますが、全体をみると職員中心に準備が進められている。重度利用者が多い為できる限り食する時にBGMを流したり、会話をはさんだりの工夫はしている。	クックチルトを利用した調理を減らし、職員手作りの調理を増やす取り組みが行われている。旬の食材を使った料理等、看護師であるサブマネージャーがカロリー等を考えながら献立を作成しており、確実に残食が減ってきている。クリスマス会ではスイーツバキングが行われ、ご利用者はもちろん、ご家族にも喜んで頂く事ができた。	食卓に季節のお花を飾っていたが、食べ物と違い、口に入れてしまう方もおられ、現在は飾っていない。外の景色を見ながら季節の話しをしているが、お部屋全体の装飾等で工夫していく方法も含めて、今後も検討を続けていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師であるサブマネジャーがカロリー等を考えながら献立を作成している。生活暦や残食の状況から好みのものを把握し月1回給食会議にて改善提案を行っている。摂取量に制限があるかたには容器の大きさを変え量を多く見せたり、嚥下咀嚼力に合わせたろみや刻みも個人に合わせて実施している。毎食後の食事量や水分量のチェックも個人別実施している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立口腔ケアの出来る利用者様は職員一人に対し、介助の必要な利用者様は義歯の取り外し、清潔、ポリドントでの支援を実施している。さらに、週1回の歯科往診時口腔体操と口腔内洗浄を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのマニュアル化により、トイレ誘導を生活リハビリと考え全職員が共有の中実施している、結果全介助から一部介助、見守り等への自立に近づいている入居者様もいる。	個々の排泄感覚に応じて、日中はトイレ誘導を心がけている。トイレを利用することで、立位訓練に繋がることで、生活リハビリの一環としている。大きめのパッドの必要性等についての検証期間を設け、小さめのパッドに変更する取り組みも行われている。肌の露出を最小限にする等、羞恥心への配慮も行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表にて水分不足の入居者様には24時間通して水分補強をして頂き、飲水拒否のご利用者様にはお茶ゼリーを作り取食していただき、繊維をたくさん取って頂くよう努めている。食事前の口腔ケア体操の実施やラジオ体操、散歩などで運動量を多くすることもおこなっている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人ゆっくりリラックスして入っていただく為に、週4回9名入浴を毎日5名入浴に変更する事で「ゆっくり出来気持ちいい」とお褒めの言葉を頂くようになりました。	週6回入浴日を設け一日当たりの入浴者数を減らすことでゆっくり入浴できるようになり、入浴中は職員との会話を楽しまれている。入浴に対して恐怖心をお持ちの方に対して、安心して浴槽に入って頂けるよう職員間で検討を続け、手順書を作成し支援した結果、2ヶ月前から不安なく浴槽に入って頂けるようになった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせる事を一番にして、テレビを見るのが好きな方や、ホールを歩いたり、車椅子移動されたり、自由にしていただいている。特に就寝時間は定めてなく、本人本位で休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一人一人の薬管理をしており、症状変化があるときは担当医との連携にて用途、容量のコントロールをしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設側のイベント企画等は一方的に支援する形を取っている為に本人の意向を確認したうえで 日常の行事やイベント企画を実施するように努めて行きたいと考えている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望としては髪の手入れで美容室は出かけられる方や洋服を買いにいきたいとの希望でスーパーに買い物へ行くなどしているが、意思疎通困難なご入居者様に対しては実施されていない ご家族や地域の方への協力も考えてはいるものの実行までには至っていない。	季節を感じて頂けるように、コスモス花園や菊花展、桜見、初詣等に出かける等の支援が行われている。外気に触れる機会を大切にされており、庭に出て外気浴しながら歌を歌ったり、おやつを頂くなどの取り組みも行われている。民生委員より、ホームの近くに喫茶店ができたという情報を頂き、職員が下見に行き、希望されるご利用者をお連れする予定となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと要望されるご入居者はおられるが、現状は施設管理でおこなっている。要望に応える為夏祭り企画では、ファミリー通貨を作り、 出店でお買物をして頂く支援をしました。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、要望のある方には対応しているが、手紙のやり取りは出来てなく、ご家族からの手紙を読む事のみとなっている。レクの中に読み書きをいれ機能訓練としていて、作成物を貼付する事を年間行事の中に計画しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、ご家族が持って来ていただいた花を飾ったり、季節感を出すために手作りの貼り絵、シーズン通じて飾っている。特に今年の正月は門松をつくり初めて見るご利用者様もいて、大変喜ばれました。ホールにはソファを置き家族との団欒の空間となっている。	玄関ホールを入ると、正面には鳥居の貼り絵がされており、造花の小枝には、お正月にご利用者が引いた“おみくじ”が結わえられている。ご利用者に快適に過ごして頂けるよう定期的に換気をしたり、テレビの音に配慮し、カーテンや遮光用のシールを使って光の調節も行われている。1階と2階には、それぞれ“くつろぎの場”が設けられており、ソファの横には本が置かれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各リビングとホールの共有空間には、過去の行事の写真が貼られたり、アルバム、書籍を置いてあり、独りで来られても、自由に見たり、読んだり出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が居心地良く過せるように事前に訪問した際にご家族とも話し合いをしている。新しいものではなく使い慣れた小家具や湯のみ、写真類などを持ち込んで頂きレイアウトもご家族・ご利用者と一緒に行っています。	鏡や仏壇、自画像等、ご本人が大切にされていたものを持ち込んで頂いている。居室の壁には、行事に参加された時の思い出の写真が掲示されている。ご利用者の身体状況に合わせたベッドの高さにする等、職員間で話し合いながら、居心地良く過ごして頂く工夫が行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、リビングには大きく案内表示されており、自立に向けた環境にしている。食事時間の大型表示や、各入居者担当職員の顔写真入りのメッセージを居室扉へ表示し親近感を出しています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	玄関は現在テンキー操作の施錠になっていて、早朝の30分のご利用者と一緒に掃除時間に開放していますが、一日の内30分は少し短時間すぎて、開放感あふれる暮らしの支援として、もう少し長い時間をとりたい。	施設の立地状況と周辺の交通状況を考慮しながら、ご入居者が屋外に出たいと思われる時に、いつでも外出できる環境作り心掛けます。取組の一環として時間帯による玄関開放時間を設ける。日光浴、外気浴機会を確保します。また、玄関の自動ドアを開錠(電源OFF)し、いつでも出掛けられる環境作りを行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日除く毎朝リハビリ体操時の1時間30分の玄関開放を実施します。 ・日曜日は午後2時～3時まで1時間の玄関開放を実施致します。 ・日々の敷地内散歩や、洗濯物を屋外に干す際に一緒に屋外に出て頂き日光浴、外気浴を行います。 ・日中は、安全に考慮しながら、自動ドアの電源offを行います。 	2 ヶ月
2	28	介護計画2表の支援計画でサービス内容が自立支援目的ではあるが、ご本人、ご家族、主治医等の役割が盛り込まれていない。	ご入居者の重度化に対応しつつ、ご本人が自立するための援助を立案する中で介護スタッフが行う支援中心のプラン、目標とならないよう、また、ご家族、主治医の協力を頂きながら、ご本人の入居生活の中で役割を見出せるプラン作り心掛けます。	カンファレンス、計画作成時及びモニタリング時にスタッフ主体の支援計画から、利用者、家族、主治医等の役割を明確にし、夫々が担う役割の意識付けを行えるよう支援計画を作成し、夫々の方に説明します。	3 ヶ月
3	42	食事を楽しむことの出来る支援として以前は食卓に花等で季節感を味わっていましたが、現在食べ物と間違っ口に入れられる片がおられるので撤去してます。料理に季節感と旬食材が多く取り入れられたメニューになっているので部屋全体を季節感漂う飾りにする事で楽しく食事ができる様に工夫したい。	雛飾り、七夕飾り等の装飾や草花は、四季を感じる風物詩であり、ご入居者の支援に欠かすことが出来ないものと思います。季節感を感じられる環境に配慮した施設内の装飾とこれまで以上に季節感を楽しめる食事提供に心掛けます。	地域の年中行事への参加や、季節に合わせた施設内の装飾を出来る限りご入居者と一緒に行います。草花についても、施設内で飾る方法を工夫し、ご入居者の目に触れるように配慮します。食事提供の際の器や盛り付けについて、季節感を演出できるよう配慮、工夫します。また、BGM等にも配慮致します。	4 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月